『ロータリーって何ですか』

国際ロータリー第2510地区
2011－2012年度 ガバナー **熊 澤 隆 樹**
（小樽RC）

あけましておめでとうございます。昨年の公式訪問では色々お世話を戴きありがとうございました。皆様のご協力のお陰で無事終えることができました。これからは皆様とはIM（都市連合会）と周年行事等が残されております。IMをグループ内の情報交換と親睦の場として大いに活用され、貴クラブの運営の活力となって戴ければと思っております。

さて今月はロータリー理解推進月間ですが、ポール・ハリス著の「ロータリーの理想と友愛（1935年、米山梅吉訳（1949年）」の一文をご紹介して、ロータリーとは何かを理解する一助となればと思い、新年の一報とさせて戴きます。

「ロータリーの理想と友愛」より

ロータリーは富豪階級然たる組織に向かおうとした。しかしイギリスにあってはあくまで商店主の国民であり、アメリカでは豚罐詰業者の国民であるように各国にはそれぞれの特色がある。そしてロータリーは両国いずれにも依然として有望であり、富める者も貧しき者も、公候も庶民も相携えてロータリアンになっている。……ロータリーは長年にわたって一定の方針をとってきている。すなわち各国のロータリー会員をしてその国々に最も良く適した仕方で、ロータリー精神を遺憾なく現わさしめる方針がそれである。アジアの希望は、必ずしもヨーロッパの要求と同一ではないものがあろう。すべての会員はロータリー精神を各々の地域に適合させ、そしてこれに満足を発見しているのである。……「会員の大多数は熱誠かつ親密な交情によって一致している。この親愛は自らこれを保持して行くのに十分なものであるが、ここに奉仕という理想を達成せしめるに当り、これより個人が団体の活動を激励するにはなお不足を感ずるところがある。ロータリーの友誼（広辞苑による友情）はそれ自身全く望ましいものであり、奉仕という理想の一概念に対して心理学的基礎を据えている」と。

さらに大学選出の委員の報告は「ロータリーの普及した友誼は、他の社交クラブや集会所に現われた友誼と似通っている。友誼はもとより必要であるが故に存在するのである。近代の都市文化はとかく人情を冷却し混乱させているから、何らかの親密な人格的関係が社会上の善徳として歓迎されるべきである。然るに実際友誼というものが望ましい種類の奉仕を助長させていない。故にその方策という問題が起らねばならない。……ロータリーはこの種の友誼を助長するために、種々の計画や団体事業に向って大いに力を致すべきであるという方策の問題が起こってくる」と。著者の見解は、会員の大多数がロータリーの事業に参加活動するに至ることを願いつつ、その事業を発展させまた興味を生ぜしめるようにたえず努力することを良策とする。…

ロータリーの異常な発達が巨額の資金を要することは自然の勢いであり、その財政は常に保守的であ

り健全でなければならない。毎年の経費は大きいようにみえるがロータリーの社会奉仕の多くは世に益しておれば、費用は意とするに足りない。世界中のロータリアンはその運動のために現に全力をつくしており、仕事に見出す満足が彼らの受ける唯一の報酬である。……ロータリー財団なるものが、アーチと呼ぶ精励な一会員の理想と決心に基づき、重要な人道主義的事業のために有力な素地となることは確実である。正しい確信をもってロータリー会員はその将来を卜し前途を眺めている。

さて、手続要覧によると、「ロータリー」という言葉をそれだけで使う場合、通常国際ロータリーとしての組織を指す。この言葉は組織の理念や原則をも意味する（ロータリー章典33．010．4）。国際ロータリー（RI）は全世界のロータリークラブの連合体である（RI定款第２条）。

ですから1905年から変化を続けている「ロータリー」の最近のそれをあらわすものとしてRIの戦略計画（長期計画）に示されているのが一番適切だと思いご紹介させて戴きます。そこには「私たちは、世界中の地域社会における人々の生活の改善に貢献するため、活発に行動力のあるクラブから成り、**人々から選ばれたる奉仕組織**である。そして私たちは、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務および地域社会のリーダーの親睦を通じて、世界理解、親善、平和を推進する」と述べております。

また、「ロータリーって何ですか」という問いにロータリーの友（2011年２月号）でバネルジーRI会長エレクトは「ロータリーは、約120万人の事業と専門職務のリーダーが世界中から集まり、友情を育み、人道的奉仕を提供し、平和のために活動するボランティア組織です。非識字、疾病、飢餓、貧困、きれいな水の不足、環境問題に取組んでいます。職業生活ならびに私生活において高い倫理基準を保つのがロータリーの確固たる信念である」と答えております。

ところで、今地区にとって近々の問題は会員数の減少です。2001年６月末に比べると2011年６月末には約３割の減です。地区はRIで言っている会員数、クラブ数はほとんど変化していません。ということでクラブに所属している会員数が単純に３割減じているということで、つまりはロータリー奉仕活動、特に地域への奉仕活動にはそれほど変化なく続いていることを示していることになります。とはいうものの地区内全ての公式訪問を終えて感じたことは、クラブの会員数の減少が組織の弱体化を招いております。CLPで組織の建て直しが必要になっているわけです。それでも各クラブは様々な工夫をして地域社会への素晴らしい奉仕活動をしております。当地区で目立ったのは、第９グループの洞爺湖RC（会員数10名）のツー・デーマーチというウォーキング大会でのグループ内６クラブ（伊達、室蘭、室蘭東、室蘭北、登別、洞爺湖）31名の参加した奉仕活動は、ロータリーのイメージアップと認知度の向上でその働きを十分発揮されてこれからの奉仕活動の新しい糸口を示してくれました。そして新しい奉仕活動は、新たな親睦をグループ内の会員間に生まれてくれることが期待されます。私の所属している小樽RCで、３年未満の新会員21名が地区大会で大きな力となってくれました。これがこれからのクラブの活性化の力となってくれることと思っております。クラブが力をつけると、地区が元気になり、それが日本のロータリーの元気を取り戻してくれることと思います。第2510地区からその元気を発信されることを期待して新年の挨拶を兼ねた一報とします。

良いお年を！